

果樹のカメムシ類に注意しましょう

(平成26年9月18日)

果樹カメムシ類については、既に注意報(5月30日病害虫発生予察注意報第1号発表)により、的確な防除を行うようお願いしているところです。その後、フェロモントラップの誘殺虫数は、8月以降は減少傾向にあるものの、9月以降も平年に比べて多く見られます(表1、2参照)。今年のスギ、ヒノキ花粉の飛散量は少なかった(※)ことから、果樹カメムシ類の主要なえさとなる球果の量も少ないと予想され、新世代成虫がえさ不足となり、果樹園への飛来が増える恐れがあります。引き続き発生に注意し、飛来が確認された果樹園では、防除を行いましょう。

※環境省 4月25日発表 大阪 平年の63%、去年の38%

○発生状況

表1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況

	河内長野市(頭)	岸和田市(頭)
8月中旬	1261(27)	256(19)
8月下旬	585(10)	90(11)
9月上旬	294(6)	35(9)

数値は誘殺虫数、()内は平均値。

平均値は、河内長野市が平成20～25年、岸和田市が平成11～25年の値

表2 ツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況

	河内長野市(頭)	岸和田市(頭)
8月中旬	55(1)	5(4)
8月下旬	51(0)	5(4)

9月上旬	25(0)	6(2)
------	-------	------

数値は誘殺虫数、()内は平均値。

平均値は、河内長野市が平成 20～25 年、岸和田市が平成 11～25 年の値

○果樹カメムシ類の生態

(1) 果樹をよく加害するカメムシ類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種である。

(2) 主な増殖場所は、スギやヒノキ等の球果(果樹園でも産卵は行われるが、成虫まで発育しない)である。

(3) 8月以降になると、今年羽化した新成虫による果樹園への飛来が見られる。

(4) なし、かき、かんきつ類等で、被害が見られ、みかんでは、極早生品種や早生品種で被害が多い。

(5) チャバネアオカメムシの雄は集合フェロモンを放出し、同種の個体を誘引するため、特定の果樹園に一夜にして多数飛来することがある。

(6) 果樹カメムシ類の活動は夕方から活発になる。果樹園等への飛来は日没後の2～3時間が中心である。

○防除対策

(1) 被害の発生には地域や園地で差が出る場合があるので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。

(2) 収穫期近くでも防除が必要となるため、薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に十分注意する。

(3) 樹高の高い樹に散布する場合は、周囲に薬液が飛散しやすいので、特に注意する。

(4) 成虫の移動能力は高く、次々と飛来するため、こまめな防除が必要となる。

(5) 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

(6) 使用する薬剤により、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合があるため、注意する。

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府農作物病虫害防除指針

(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)

- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム
(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)
で確認してください。